至馬木
温品小学校
温品橋
正光寺
温品交番
温品公民館
交番
清水谷神社
八幡橋
温品で最も古い石灯ろう
温品出張所
水害碑
神木の碑
下温品
ユアーズ温品店
第１神前橋
ゴール
公園
温品第五公園
万休寺前
温品通り
東消防署
温品出張所
淡嶋明神社
休憩所
至広島駅
第２神前橋
スパーク中山店
スタート
永井製パン
温品工場
明神橋
フォレオ
安芸府中
道路入口
第４回東区健康ウオーキング
スパーク中山店～水害碑
～清水谷神社（約４キロコース）
新鶴江橋
広島高速１号線
安芸府中道路
至府中

《淡島明神社》

広島藩主の浅野家が紀州和歌山から、広島に移った時一緒に来ました。当初は長伝寺に祀られていましたが、その後現在の福永さんの所に移されました。一時徳本さんの場所に移転されていましたが、現在は元の福永さんの所に祀られています。徳本さんの所はお社だけが建っています。

「あわしもんさん」の呼称で親しまれており、農業・裁縫・交通・安産の神様で、特に子宝と安産については、昔から信仰する人が多いと言われています。

《神木の碑》

清水谷神社へ参詣道にあり、昔、八幡社を建てた時に銀杏の木を植えて、この土地の人々が大きく栄えるように、また、火難をまぬがれ、この木も大きく成長するようにとの祈りを込めて植えられたそうです。

その後、この銀杏の木は大きく成長して大木となりましたが、どの位の年月が経ったのかわかりませんが明治１０年頃に枯れて、現在はその根っこの一部が残されています。

《水害碑》

温品川（府中大川）は、大昔から何回も氾濫を繰り返し、住民は大きな被害を被ってきました。

洪水の度に村中総出で川底さらえが行われ、時には隣村の協力を得て治水の努力が続きました。温品の住人にとっては川との戦いの歴史でもあったのです。

大正15年9月11日、大雨により温品川が氾濫して、家屋の流失100棟、田畑の流失約50町歩、死者4名という大被害がありました。この水害を末長く留めるために、昭和5年9月11日に「水害碑」が建立されました。

《清水谷神社》

言い伝えによれば、神功皇后が九州に行かれる際、温品の金淨碇という所に船を留め、現在の神社の上の白地岩の所で３日間滞在され、そばを流れている清水でお米を洗い家臣たちと過ごされ、また九州から帰られる際にも寄られた、とあります。

当時、当地の大旦那の夢枕に白髪の老人が現れ、「この清水で病を治せば長生きをするであろう」とお告げがあったとのことです。大旦那はこの地に社を建てて京都の岩清水八幡宮から祭神を迎えて祀られた、と言われています。

以来、当地の鎮守の氏神様として、恩恵あらたかな八幡様として信仰を深めてきています。

《温品で一番古いと思われる石灯籠》

文政8年（1825年）の年号が刻まれています。灯籠は、奈良時代に神社や寺院の本殿前や参詣道に据えて、灯火をともしていましたが、平安時代には一般家庭にも据えられて風趣を味わうようになりました。

《正光寺》

いつの頃か不明ですが、江戸時代末期に温品に説教所が設けられましたが、これが正光寺の前身と言われています。明治7年、府中の総社が廃社となり、その社殿を解体して温品の説教所に移し本堂として建築されました。この本堂で温品校として寺子屋を開き、時の住職教重僧信氏が習字の教授のかたわら生徒の指導監督をしたとあります。

この説教所の本堂が明治13年、浄土真宗本願寺派の「正光寺」として開基しました。温品地域の家々の菩提寺として、また、浄土真宗の道場として深く信仰を集めて現在に至っています。この間、正光寺の横に温品小学校が新築移転するなど、同寺と小学校とは寺子屋時代から深い繋がりをもってきています。

明治24年には鐘楼が建立されたり、境内も拡張されましたが、昭和20年8月6日の原爆により、本堂は破損するなどの被害を行けました。その後、平成6年本堂の大修復が行われ今日に至っています。

＊解説は「ふるさと散策　ぶらり温品・上温品」（平成 20（2008）年 6 月印刷）より抜粋して編集

２０１０．１１．７　東区公衆衛生推進協議会、東区スポーツセンター、温品公民館、東区健康長寿課